

観光×防災で全国の緊急避難場所を紹介

「Evacuation Site seeing 防災観光地」12月20日(金)公開

全国の宿泊施設にポスターも掲出

高知県中土佐町 担当者「観光を通じて災害時における避難先を把握できる素晴らしい取り組み」賛同コメント

全国のホテルや旅館にリゾートバイトという形で人材派遣している株式会社グッドマンサービス（所在地：東京都千代田区/代表取締役社長：月花拓美/以下グッドマンサービス）は、観光地の新たな魅力を発信しながら、災害時の助けとなる情報を提供するため、全国の「観光」と「防災」の二面性を持つ「防災観光地」を紹介する、「Evacuation Site seeing 防災観光地」を12月20日（金）に公開いたしました。観光地の魅力を楽しみながら防災への意識を高め、日本の観光振興と防災啓発の両面から、地域振興につなげられればと考えております。また、全国の宿泊施設にポスターも掲出する予定です。



特設サイトURL：<https://evacuation-site-seeing.com>

■取り組みの背景

私たちグッドマンサービスは全国のホテルや旅館にリゾートバイトという形で人材を派遣しており、日頃から観光視点での取り組みを取引先の宿泊施設などと模索し、少しでも地域振興できるよう努めています。昨今、地震や津波などの自然災害が頻発し、特に東日本大震災や熊本地震の際には、多くの観光客が避難方法を知らず、困難な状況に直面しました。「Evacuation Site seeing 防災観光地」により、日本の観光振興と防災啓発を同時に進めることで、国内外のお客様に観光地を盛り上げながら、もしもの時の緊急避難場所となることを知っていただくことで、その地域を安心して訪れることができる環境作りと、日本のさらなる魅力を感じてもらえればと思っております。

■高知県中土佐町総務課危機管理室 山岡さん（中土佐町第1号津波避難タワー）

「Evacuation Site seeing 防災観光地」では、防災情報だけでは啓発しきれない部分を、観光を通じて災害時における避難先を把握できる素晴らしい取り組みだと思います。中土佐町第1号津波避難タワーは、太平洋がすぐ目の前にある立地に建設している津波避難タワーで、普段は展望台として開放しておりロケーションは最高なのですが、災害時には命を守る前線の役割を果たします。この二面性こそ、防災と観光をつなぐ大きな魅力です。観光で訪れた方々にも、自然の美しさとともに、施設の防災としての力を意識してもらうきっかけとなれば嬉しいです。

■経済観光課管轄商業観光グループ 大石さん（静岡県磐田市津波避難タワー）

磐田市渚の交流館に隣接している津波避難タワーは、地震発生時や津波などの恐れのある場合に、周辺エリアの皆さんが安心して避難できる施設として整備しました。土日祝日には施設を開放し、防災教育や減災意識の定着を図っています。今回の防災観光地の紹介企画によって静岡県磐田市の渚の交流館と津波避難タワーを多くの方に知っていただき、訪れていただければ幸いです。

防災観光地 一例

▼宮城県：石巻市複合文化施設（マルホンまきあーとテラス）



宮城県石巻市に建つ、ホールや博物館、アトリエなどの機能を持つ地上4階建ての複合文化施設。
東日本大震災により被災した石巻文化センター及び石巻市民会館の機能を統合した。
三角屋根の建物が立ち並ぶ昭和初期の象徴的な風景を発展の象徴と捉え、継承する石巻復興のシンボル。

住所：宮城県石巻市開成1-8
敷地面積：約22,300平米
建築面積：約8,400平米
最高高さ：約36m

▼三重県：錦タワー



津波災害から生命を守る「安心」の塔として地域住民から親しまれる5階建ての緊急避難タワー。
平時の際には、1階が消防倉庫、2階が地区住民の集会所、3階には東南海地震津波被災時等の写真、防災資料の展示を行い、防災意識啓発の提供の場として整備されている。

住所：三重県度会郡大紀町錦354-1
建築面積：111.77平米
収容人数：約500人（津波の際は約100人）
高さ：21.8m

▼静岡県：磐田市渚の交流館津波避難タワー



観光防災を体現する津波避難タワー。隣接する「渚の交流館」では遠州地域の新鮮な魚や野菜を味わえる飲食店や物販店があり、海辺にちなんだ体験教室や地域産業の魅力を体験できるイベントも開催。タワーは土日祝日には見学が可能。

住所：静岡県磐田市豊浜4127-43
延床面積：317.03 平米
収容人数：330人
高さ：12m（屋上15m）

▼高知県：中土佐町第1号・2号津波避難タワー



津波による漂流物を受け流しやすいよう設計されている円柱形の津波避難タワー。
第1号津波避難タワー付近は国の重要文化的景観区域に選定。周囲の景観と調和するようデザインされ、2016年度にはグッドデザイン賞を受賞。普段でも展望台として開放。

【第1号津波避難タワー】

住所：高知県高岡郡中土佐町久礼6781-1
収容可能人数：400人
高さ：10.7m（2階）、14m（3階）、17.3m（屋上階）/TPは6.0m
コンクリート充填鋼管柱：16本

▼高知県：黒潮町佐賀地区津波避難タワー



国内最大級の津波避難タワー。7階建のビルに相当し、津波から人々を守る。平時には地元自主防災組織による有料プログラムも用意されており、収入は津波避難タワー内の備蓄品購入に充てられる。付近ではホエールウォッチングやサーフィンも人気。防災ツーリズムの盛んな街として注目されている。

住所：高知県幡多郡黒潮町佐賀702
避難フロア面積：233 平米
収容人数：230人
高さ：22m（避難フロア）、25m（全体）

▼石川県：禄剛崎灯台台地



能登半島の最先端である禄剛崎に建つ、明治時代に日本人のみの設計で造られた白亜の灯台。無人のため灯台内は見学不可。（年に数回一般公開がある）1998年に「日本の灯台50選」に選ばれ、2009年には「近代化産業遺産」に認定。禄剛崎灯台の台地が津波避難場所に指定されている。

住所：石川県珠洲市狼煙町イ-51
高さ：地上から頂上まで12m、海面から灯火まで48m
点灯年月日：1883年7月10日

▼大阪府：大阪城公園



歴史のロマンがあふれる天守閣を中核に据えた都市公園。「太閤さんの城」として大阪の人々に親しまれているこの地は、桜の名所としても有名。平時も緊急時も大阪の街を温かく見守る存在である。

住所：大阪府大阪市中央区大阪城 1-1
面積：105.6ヘクタール
海拔：約32.4m（天守閣）

観光×防災の魅力について

■防災士・フリーアナウンサー 塩地 美澄さんコメント



私たち日本人は常に大規模災害のリスクに脅かされながらも、防災に関する意識や備えについては圧倒的に不足しているのが喫緊の課題です。いつ起こるか誰にもわからない地震も、世界の発生数のうち約2割が日本に集中していますが、実際には国内の観光地を訪れた場合も「避難先を知らない」ケースが多いのではないのでしょうか。

今回のプロジェクトでは、国内外から訪れる観光客の方々が、いざという時も冷静な行動ができるように安全な避難場所などの情報を受け取れます。何より観光を楽しんでいただきながら自ずと防災意識を高められるのが最大の魅力です。

1人でも多くの方が自分の命を守ることに繋がりますように...防災士として私も発信に務めてまいります。

【プロフィール】

局アナ時代に災害報道に携わるなかで被災を経験。

24時間地震情報をライブ配信するティーファイブプロジェクトのYouTubeチャンネルでは防災士アナウンサーとして出演中。

■宿泊施設にポスターも掲出

防災観光地を多くの方に知っていただくため、賛同いただいた宿泊施設へポスターの掲出を予定しております。ポスターを通じて、防災意識を高めるとともに観光地の新たな魅力を発見していただくきっかけを提供することを目指しています。



《素材ダウンロードURL》 共通PASS：goodman

画像素材：<https://bit.ly/3BoLJbO>

一本リリースに関する報道関係者様のお問い合わせ先
「Evacuation Site seeing 防災観光地」プロジェクトPR事務局（株式会社マテリアル）
TEL：03-5459-5490 / MAIL：bp1-1g@materialpr.jp
[担当] 赤坂：070-8792-1096